

平成29年度第2回秋田県建設業審議会の概要について

1 審議会の開催日時及び場所

平成29年7月14日（金）午後1時30分から午後3時まで
秋田地方総合庁舎6階608会議室

2 出席した委員の氏名

長岐和行、及川洋、佐々木幸子、松本安彦、小玉喜久子、今野敬二、菅良弘、村岡
淑郎、阿部公雄、石川武清（委員14名中10名出席）

3 議事の概要その他審議会の経過に関する事項

(1) 議事録署名委員の指名

長岐会長により、議事録署名委員として、及川委員及び今野委員が指名された。

(2) 報 告

「秋田県建設業審議会担い手確保・育成小部会最終報告について」

「秋田県建設産業担い手確保育成センターについて」

秋田県建設業審議会担い手確保・育成小部会が先般とりまとめた「建設業の担い手確保・育成の具体的な方策等について」（最終報告）の内容と、県が新たに設置することとなった「秋田県建設産業担い手確保育成センター」計画の概要を報告し、意見交換を行った。

【質疑応答・意見等の概要】

委 員： センターは何年間設置するのか。

事務局： 予算としては5年間事業として要求している。毎年度、センター事業の成果を検証し、見直しをしていきたい。

委 員： 非常勤職員2名の採用では物足りない感がある。

事務局： センターは正職員6名と非常勤職員2名の8名体制となる。県の財政事情が厳しい中、補正予算で非常勤職員2名の予算を確保できたということは、かなり力が入っていると受け止めていただきたい。

委 員： 小中学生も含めて若者に対して積極的にPRしていくことは非常に大切である。

委 員： 建設女子会についてはもっとPRしたほうがよい。

委 員： センター事業は多岐にわたるようなので、今後、年間スケジュールを固めるということが大切になるだろう。

事務局： 御指摘のとおりであり、今後、スケジュールや工程表というものを速やかに作成したい。

なお、スケジュールについては、センター運営委員会で検討し作成する予定である。

委員： ドローンは若者にとっても非常に魅力があると思う。

委員： 確かにドローンは非常に画期的で魅力的な技術であるが、市街地を飛行させる場合は特別な手続が必要であるなど制約も多い。

委員： ワンストップ機関としてのセンターという表現だが、どのようなイメージになるのか。

事務局： センターが繋ぎ役となって情報を収集・提供するということでワンストップと表現している。

また、センターだけで全て対応できるわけではないので、関係機関が役割分担して進めていく必要がある。

委員： ワンストップというのは、総合案内役、専門機関への橋渡し役ということだろう。

委員： 隣県で大幅に若返りをした建設企業がある。そういうところを視察して県の施策に反映させることが望ましい。

委員： センターのノウハウについて、人事異動で途切れてしまうことがないよう、後継者にきちんと引き継いでいくことが肝要である。

委員： 厚生労働省と県建設部がセンターを介して直結する体制となり、非常に望ましいことである。

委員： これだけ注目されているセンターであるから、すぐに成果を求められることになるかもしれない。

例えば、現場見学会は降雪時には実施できないし、高校生向けの事業は進路を決めるタイミングを見計らって実施しなければならない。

このように、各事業を実施する上で最も効果的な時期というものを見極め、適時に実施していくことが重要である。

(3) 審 議

「建設業の担い手確保・育成の推進方策について（答申）」

本審議会から秋田県に対し、建設業の担い手確保・育成の推進方策について答申をした。